

老嶠先生追悼号

大阪齒科大学校友会報

表紙題字：白数美郷雄学長

一頁上欄の吉崎先生像は、古稀のときの荒木画伯筆による肖像画



故 吉崎誓信先生



吉崎先生略歴

明治17年5月13日 大阪府に生まれる
明治35年3月 府立八尾中学校卒業
大正5年6月 ペンシルバニア大学歯学部卒業
ドクトル・オブ・デンタルサージ
ェリーの称号を受ける
大正10年12月 大阪歯科大学専門学校教授
昭和6年9月 大阪歯科大学専門学校付属病院院長
昭和22年7月 財団法人大阪歯科大学理事
昭和27年4月 大阪歯科大学教授（新制）兼大阪
歯科大学付属病院
昭和28年1月 大阪歯科学会顧問
昭和32年4月 大阪歯科大学々長
昭和34年8月 京都大学より医学博士の学位を授
けられる
昭和36年4月 大阪歯科大学大学院教授兼任
昭和38年 第10回日本歯科医学会総会々頭
昭和39年11月 藍綬褒賞を授けられる
昭和40年2月 正五位勲三等を授けられる
昭和40年1月19日 死去，80才



吉崎誓信先生逝去さる

悲しみのうちにも盛大な大学葬

故吉崎学長の大学葬は2月7日(日)本学講堂で、厳しゆくに、しかも盛大に行なわれた。

当日は、故人の遺徳をしのぶかのように冬季にはまれな好天に恵まれ、午後1時からの葬儀式を待ち切れず、早くから多数の会葬者がつめかけ、本学玄関前に仮設された受付の人々をあわてさせた。参列者は、その後、続々と増え、ついに1500人の多くを数えるに至つた。講堂内は立錫の余地さえなく、場内に入り切れない参列者は廊下に溢れ、会場外にも用意されたマイクを通じて葬儀の進行を見守る状態であつた。故学長の遺徳がいかに大きかつたかをあらためて思いしらされる。

参列者は、各歯科大学関係、校友会、歯科医師会関係をはじめ、各界の名士多数がつめかけ、受付関係者は、その応待にひきもきらぬ有様であつた。

葬儀は、飯塚理事長を葬儀委員長に、白数新学長、緒方校友会会長を同副委員長として、午後1時から葬儀式、午後2時から告別式が、それぞれ神式によりとり行なわれた。

式場前方の中央には特製の祭壇が設置され、豪華なうちにも簡潔な神威が神式特有の清潔、厳しゆくな空気をかもし出した。祭壇の中央には故学長の遺影とともに、栄誉をたたえる藍綬褒賞、正五位勲三等の勲紀が一きわ光彩を放ち、各方面から贈られた供花類も一段と会場を引き立たせた。会場のあちこちに立てられた遺族席、来賓席、葬儀委員席などの立札が参列者の気持ちを引きしめる。しわぶき一つしない重苦しいほど静肅な式場の空気は葬儀式のことはによつてはじめて破られ、莊厳な中にも盛大な大学葬がいよいよ始まつた。

葬儀は式次第の順に従つて、何の渋滞もなく進められる。神官の動作の一つ一つは型にはまり切つたようでありながら参列者の心を打つ。祝詞が奏上されて、緊張の度はますます高まつてくる。そして、祭主飯塚理事長の祭文、白数学長、愛知文部大臣、左藤大阪府知事、岡本全国歯科大学学長会議々長、中原日本歯科医師会々長、緒方校友会会長、学生代表と弔辞が続々と引きつがれると、偉大な先生を失なつた悲しみが参列者の心底深くしみこむ。悲しみの底に沈潜しながら、先生の御遺志を継ぐことの重大さを痛切に感じさせられる。

そのような雰囲気の中で206通におよぶ弔電が披露された。その中で故学長の母校ペンシルバニア大学同窓生の弔電が人々の注目を惹いた。

齊主、祭主、喪主、来賓、親族の順に玉串奉奠が行なわれ、緒方葬儀副委員長の謝辞をもつて葬儀式は終り、2時過ぎから告別式に移る。

いよいよ一般会葬者の玉串奉奠に移つたが、あまりにも多数のため、奉奠の列は予定の3時を過ぎても絶えることなく、齊員の挨拶が終つて告別式が無事終了したのはすでに4時に近かつた。

葬儀が完了しても、会葬者はなおあちこちにたむろして先生の御遺徳をしのび、盛大な葬儀の余音は式場内外にいつまでも残つていた。

葬儀委員諸氏の御苦勞もさることながら、今さらながら故学長の偉大な御遺徳を感じる。



大学葬しめやかに挙行

故吉崎先生ゆかりの天満橋学舎で

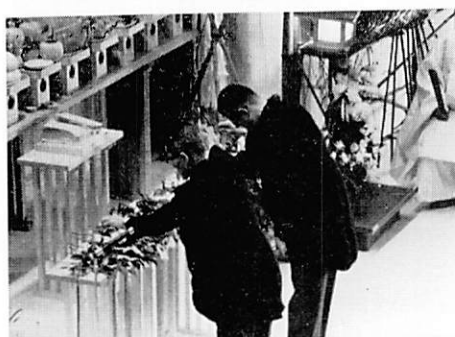




神式にしつらえた祭典場



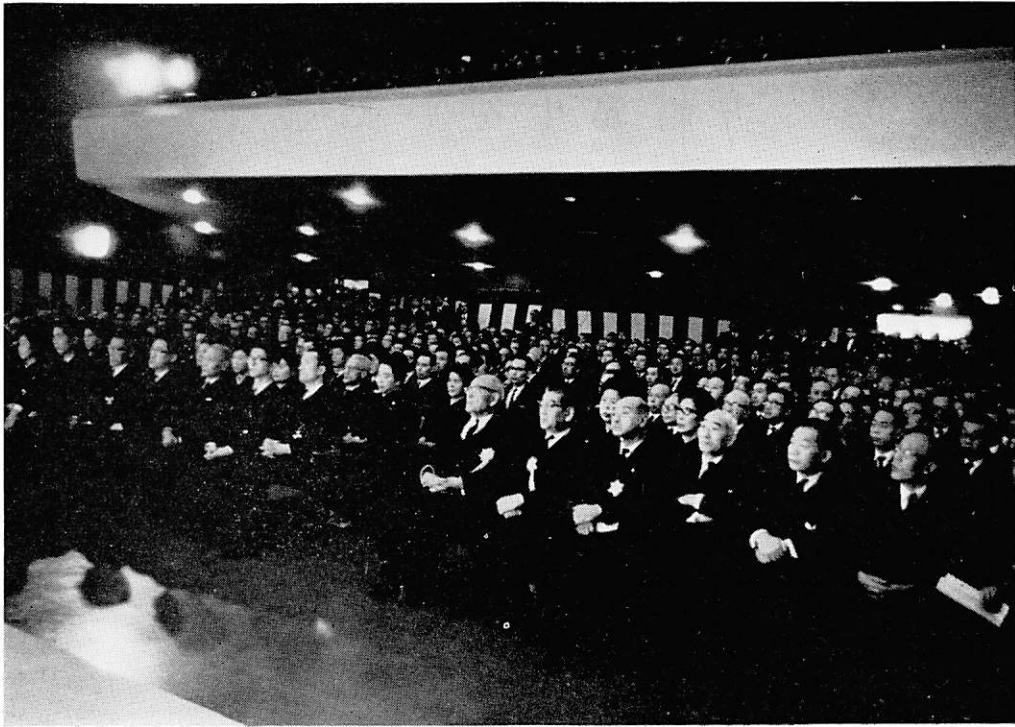
緒方会長の玉串奉奠



御遺族の玉串奉奠



玉串を捧げる白数新学長



立錫の余地なき参列者



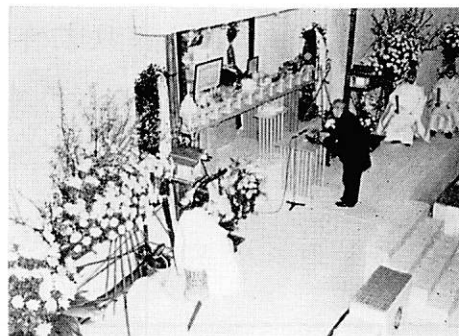
祭主
宮司の祭文奏上



涙新たな遺族席



一般参列者の玉串奉奠



飯塚理事長の玉串奉奠

吉崎先生をいたむ

私は現在校友会の責任者として、業務を運営しているが、今一番脳裡を離れないことは、前校友会会長であられた故吉崎誓信先生の遺徳である。

吉崎先生はたしか校友会会長を2期連続してその重責をはたされたと記憶している。その間色々と革新的なことをやられた。丁度ケネディの米大統領就任のときにもあたり、ニューフロンティア精神に近い考えを旧い校友会にとり入れられ、組織の若返りと充実に、縦横の経綸を振られたのである。

この組織の固まつた丁度よい時期に私にバトンを渡され、今後とも一層校友会の一致団結を望まれていた先生の遺志を痛いほど強く私は感銘している。

もともと私は吉崎先生とは理事として一緒に大学運営のため努力してきた仲であり、その人となりは十分に知っているつもりだ。初めて私が先生を知つたのは昭和2年の2月頃で、当時の学生に頼まれ、先生の本町診療所を尋ねたことが初まりで、次は私の南区の今は戦災で焼けてない診療所に先生自身の問題で相談にみえられて以来、御親交を願っていたのである。

先生は健康であり時間を守られることには特に敬服していた。

信仰の深さと自分の信念の強固さにより現在の大学の殿堂の落成、大学院の設置は先生の生涯を通じての快心事であつたと、今さらながら功績が偲ばれるのである。

この春には激職を去られ、功なり名を遂げて悠々自適される境遇であられた。先生の身辺を考えると、先年アメリカ留学以来の永年の御夫人をなくされ淋しい御生涯であつたと涙するものである。



校友会会長

緒方純造

謹しんで故吉崎誓信先生の御冥福を

お祈り申し上げます

大阪歯科大学校友会

学校法人 大阪歯科大学

大阪歯科大学教職員会

大阪歯科大学父兄会

弔 辞



白 数 美 輝 雄

故大阪歯科大学々長、正五位勲三等医学博士、吉崎誓信先生の御英霊の前に全教職員を代表し謹んで最後の御言葉を捧げます。時恰も昭和40年の新春も半を過ぎ、自然の万象寂として荒寥の気天地に満つるとき私達の敬慕してやまなかつた先生は、1500有余名の教職員と学生を残し静かに、静かにこの世を去つて逝かれました。昨年の終り頃から微恙にあられた事は知っておりましたが、12月23日教授会にも御出席され、重要な諸案件を採決されたのであります。私達はうかつにも、あのように御病状が進んでいるとは夢想だもしなかつたのであります。理事会、教授会、亦はその他種々の会合にも先生は、苦痛をしのんで出席されていたのであります。しかしその間、私達は一度も先生の苦しそうな御顔色を見た事がありません。古武士といおうか聖者と申しましようか、ただ頭の下る思いが致します。吉崎先生は本学の前身、大阪歯科医学専門學校に大正の末期より赴任され、通算40年の永い間、母校

の教授として在任され、その間付属病院長、総務部長などの要職を歴任され、昭和32年より学長として最高責任の地位にあること実に8年間本学の発展充実のため教育研究大学運営の鬼となつて精魂のかぎり傾けつくされたのであります。また法人理事として19年間、よく飯塚理事長をたすけ、その分身として当時極めて苦難な學校経営に、いばらの道を突破されてきたのであります。おもえば御在職40年間の母校の歴史は幾多の迂余曲折、波乱に富んだ苦難の道でありました。終戦後の学制改革、進學課程の新設、付属病院及び本學舎建設、大学院設置などの幾多の大事業を見事完遂され、難関を乗り越えて母校を今日の大に至らしめられた先生の偉大な功績を私たちは心よりたたえまた心より感謝するとともに永く大學歴史のさんたる一頁を飾ることでありましよう。先生の高邁な學識と卓越した指導力、比類なき統率力をもつて全學をひきい、事に臨んで常に中正を以つて対処され、人に接しては溫容寛仁の態度を持たれ衆望を一身に集めて慈父の如く慕われ、ひとしく尊敬の的でありました。私はある一事に情熱を傾け尽している人の姿ほど素晴らしいものはないと思います。しかも男子の場合それがなんであろうともわけても、教育に脇目もふらず一つのものを追いかけて止まない姿こそ吉崎先生でありました。

思えば先生は日本齒科界の先覺者として、その尊い80年の生涯を終えられました。痛惜哀哭極りなく全く



故 理 事 学 長

吉 崎 誓 信 大 学 葬 式 次 第

學校法人 大阪歯科大学

昭和四十年二月七日

本 学 講 堂

一、午後一時

葬儀式のことば

略 歴 報 告

修 穰 行 事

献 主 祝 詞 奏 上 饌(この間奏樂)

祭 主 祭 文

告 別 の こと ば

弔 辞 拝 受

弔 電 代 読

齊 主 玉 串 奉 奠

祭 主 玉 串 奉 奠

喪 主 玉 串 奉 奠

來 賓 玉 串 奉 奠

親 族 玉 串 奉 奠

葬 儀 副 委 員 長 謝 辞

葬 儀 式 終 了 (弔 辞 退 場)

告 別 式 準 備

告 別 式 開 始 (弔 辞 入 場)

参 列 者 玉 串 奉 奠

公 葬 者 玉 串 奉 奠

告 別 式 終 了

弔 辞 退 場 (挨拶)

以上

一、午後三時

以上

夢のようであります。先生は定めし母校の将来に対し、万解の思いを残されていることでありましょう。

噫々今や先生の温顔に再び接することが出来ません。先生よ霊あらばどうか見て下さい。師弟恩愛の憶出に涙を秘め、先生の霊にふれるべくたちがたい思慕の情に迷いて、おろがむ全教職員の姿を、然し私達は徒に悲嘆の涙にくれることなく、悲しみを秘めて奮起し、先生の脈々たる至情至統の御遺志を継承し、依鉢をついで益々団結して総力を結集し、母校将来の発展に邁進する覚悟であります。希くば在天の英霊よ母校の空をあまかけりつつ何卒何卒私達を鞭撻御加護あらんことを。

(大阪歯科大学々長)

愛 知 撥 一

大阪歯科大学長医学博士吉崎誓信氏がせい去され本日ここに大学葬がいとなまれるにあたりつつしんで哀悼の意を表します。君は大正5年北米合衆国ペンシルバニア大学歯学部を卒業し、その後大阪歯科大学専門学校教授同付属病院長を経て昭和24年大阪歯科大学教授となり、同付属病院長を兼ねられました。同32年学長の重責をにない今日にいられたのであります。この間君は歯学に関する深い造詣をもつて学生の研究を指導され付属病院事業の進展をはかり、さらに発展途上にある大学の運営に尽すいされよくその職責を全うされました。君はまた大阪歯科学会顧問大阪口腔衛生協会々長等数多くの要職にあつて、日夜寝食を忘れて活躍されました。大学今日の隆盛とともに当地における歯科学研究の振興ならびに口腔衛生の進歩向上は、この君の終始かわらぬ御尽力に負うところが、はなはだ大きいと思うのであります。君がその生涯を通じ学者としてはたまた教育者として、わが国の学術教育社会文化の進展に貢献された業績はきわめて顕著なものがあつて、昭和39年藍綬褒章を受章され、このたび正五位に叙せられ勲三等瑞宝章を授けられましたのは、ひとえに君の長年にわたる輝かしい功績によるものであります。君はすぐれた人格と識見によりつねに周囲の信望をあつめられ、医学界の長老として最近にいたるまで後進の指導育成になみなみな熱意を注がれたのであります。しかるころ、君はかねて病のため御療養とこのことをうかがい、わたくしどもは一日もすみやかに御回復のほどをお祈りいたしておりましたのに、薬石も効なくにわかにはせい去されましたことはまことに痛惜に堪えません。ここに深く君のせい去

をいたみ生前の功績をたたえ、つつしんで弔辞といたします。

(文部大臣)

飯 塚 淳 一 郎

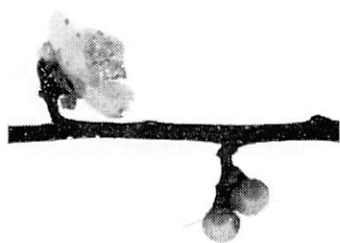
本日ここに故大阪歯科大学々長、理事正五位勲三等吉崎誓信君の大学葬を執り行なうにあたり、度みてみ霊に白す。君は大正10年本学の前身大阪歯科大学専門学校教授に就任し、爾來通算40余年にわたり、歯学教育とその向上発展のためにつくされ、殊に昭和22年大学に昇格してからは財団法人理事兼病院長として、さらに同32年学長に就任後は教育内容の改善と施設設備の拡充に努力され、もつて現在の病院と大学校舎の建築及び、大学院の設置を完成するに至らしめた功績は極めて顕著であり、私の深く感謝してやまない処であります。君は責任を重んじ、情熱をこめてひたすら本学の発展のために献身され、また常にかくしやくとして壮者を凌ぐほどでありましたのに図らずも昨秋以来健康を害し、専ら医治療養につとめられたがその効もなく去る1月19日遂に白玉楼中の客となられたことは本学の大損失であるばかりでなく、我々関係者に校友一同の痛惜措く能わざる所であります。然しながら君の功績は空しからず昨年11月藍綬褒章を授けられさらに今回正五位勲三等を賜わるの名誉に浴し、余榮極まれりと申すべきでありましょう。加えるに君の後をつぐ学長は既に定まり、その他君の遺志を継承する新進学徒甚だ多く、本学の前途は洋々として何ら憂うべきものはないと信じます。

み霊よ、希くは安んじ給わんことを、本日ここに君が御生前の功績を偲び大学葬の礼をもつて、み霊に永遠の別れを告げる言葉といたします。

(大阪歯科大学理事長)



弔 辞



緒 方 終 造

故正五位勲三等本学々長吉崎誓信先生俄に長逝され哀悼の情に堪えませぬ。先生は大正10年12月大阪歯科大学専門学校教授として就任せられ爾來40年間学生の指導に当られその間昭和22年学制改革により大阪歯科大学が設立されるや理事長を補け本学の基礎を築かれ遂に大阪歯科大学及び大学院の建設等の功績は非常に大きいのであります。また7000有余名の校友を世に送り、また著書ならびに論文を続々と発表されて口腔治療の発展のため大きな足跡を残されたのであります。さらに29年間の長きに渡り付属病院長とし、昭和32年4月学長に就任されて以来今日までその重責をはたされたのであります。その上昭和33年より4年間校友会会長として御指導下さいましたことは感謝に堪えない次第であります。図らずも昨冬以来病魔に冒され看護薬石の効も空しく遂に不帰の人となられました。洵に痛惜哀悼の情に堪えない所であります。茲に生前の功績を感謝し、願わくは安らかに御瞑目され永えの冥福をお祈りする次第であります。

(大阪歯科大学校友会々長)

中 原 実

謹んで大阪歯科大学長故吉崎誓信先生のみたまに申し上げます。先生は夙に歯科界に志を立てられ、大正5年6月ペンシルバニア大学を卒業、大正10年帰朝同年12月大阪歯科大学専門学校教授に就任、同校付属医院副院長、同院長等を歴任、自来今日まで40年の長きに亘り終始歯科教育に専念され子弟の教育と歯科医学の進歩発達に貢献し今日大阪歯科大学をかくも高度なる

水準に到達せしめた先生の業績の甚大なることは歯科界一般が深く感謝の意を表しているものであります。又この間かたわら当地に診療所を開設し公衆歯科衛生の普及向上にも寄与された。更に昭和21年には同校の理事となり学校経営に軌掌し或いは文部省教育審議委員会委員となり、文部行政に参画し、又日本歯科医師会歯科教育審議会委員として医政えも尽瘁され次いで昭和32年大学学長に就任される等先生の英邁なる資質と非凡なる才腕は常に噴々たる名声を博し歯科界に偉大なる足跡を残されたのであります。一言にして尽せば吉崎先生はその人がらとして実に「よく出来た人」でありこれこそ先生を表現したすべてであると申すことが出来ます。不幸病のおかすところとなり遽かに先生を喪いましたことは殊に私として痛惜に堪えません。ここに大阪歯科大学葬に臨み恭しく敬弔のまことを捧げる次第であります。

(日本歯科医師会長 日本歯科大学長)

藤 井 東 次 郎

正五位勲三等本学学長吉崎誓信先生俄に長逝され哀惜に堪えませぬ先生は我々父兄会運営についても常に御指導を賜り私達の子弟にそそいで戴いた御愛情は到底筆舌には言いあらわすことができません。会員一同が先生を御したい申し上げたのも決して故なきではありません。茲に謹しみて深甚なる感謝並に敬弔の意を表し御冥福をお祈りします。

(大阪歯科大学父兄会々長)

岡 本 清 纓

大阪歯科大学長吉崎誓信先生には、かねて御療養中と承わり、私どもはひたすら御快癒を祈つておりましたが、ついに去る1月19日御逝去になりましたことは誠に哀惜の情に堪えません。先生は大正5年米国ペンシルバニア大学歯学部を御卒業になり、御帰朝後は、大正10年以来今日まで実に40数年にわたり終始一貫、常に枢要なる地位にあつて、大阪歯科大学のために御尽瘁なさいましたことは、ひとり同大学の今日の隆昌をもたらしたのみならず、わが国歯学教育の興隆、学界の進展の上にも、大なる貢献をなされたのであります。私どもの齊しく感謝に堪えぬところであります。

昨年11月、藍綬褒章を授与されましたことは、先生にはむしろ遅きに失したことは存じますが、歯学教育に尽された御功績に対する当然な榮譽として私どもの大きな喜びでありました。しかるに、歯学教育の一つの転機に立っていると思われる今日、更に一層の御指導を願わねばならないことが山積しております折柄、この敬愛する先輩を失いましたことは、誠に痛恨の極みに存じます。ここに先生にお別れするに当り、長年の御厚誼と御指導とを深謝し、心から御冥福を祈りまして弔詞といたします。

(全国歯科大学々長会議代表)

鶴 身 紀 雄

謹しんで故吉崎学長の御霊に哀悼の意を捧げます。先生が、病に倒れられた事を耳にし私達一同御全快の一日も早からん事を、ひたすらお祈り申し上げておりましたのに、そのかいもなく御他界なされ私達唯々無限の悲しみに、ひたるのみであります。思い返せば入学式の日以来先生は、折にふれ機をみて私達に歯科医学の進むべき道、学生のあるべき道を御教示下され、又本学の学生としての誇りを、私達に植え付けて下さいました。それが……

温い目で私達を、見守つて下さった先生の高大な人格に最早や接する事が出来ないかと思うと、私達的心は悲しみで一杯です。然しながら私達は先生の教を胸に刻み、在学生一同に代りまして歯科医学の発展に専心精励致します事を霊前にお誓いして、この悲しいお別れの言葉と致します。

(在学生代表)

西 山 幸 男

昭和40年1月19日社団法人、大阪府歯科医師会名誉会員並びに大阪口腔衛生協会々長吉崎警信先生は卒然としてご逝去されました。想いますと、先生はアメリカ合衆国ペンシルバニア大学において歯科医学を修得せられ大正10大阪歯科医学専門学校教授に就任されて以来、前後実に半世紀の長きにわたつて、その職を奉ぜられ殊に昭和32年学長に就任せられて、今日までのあたりに見るこの堂たる偉容の大阪歯科大学、学舎を完成されたのであります。その間、昭和30年4月大阪府歯科医師会の名誉会員に推薦せられ、又昭和32年4月本会を中心に大阪口腔衛生協会が創立せられ

ますや、公私ご多忙の中にありながら快く会長就任を承諾せられ、広く府民の口腔衛生普及事業に尽粹せられたのであります。更に昭和38年10月の下旬に第10回日本歯科医学会総会を当地大阪市に開催することが決定されますや、同37年10月その会頭に就任せられ、困難な準備業務或いは学会当日の運営の統轄に当られました結果この学会には、日本全国の歯科医師が実に7000余名もの参加があり、遠く海外からも著名な歯科医学者の参加がある等、日本歯科医学会初まつて以来の盛会となり我が国における歯科医学の進歩発展の現状を全国歯科医人のみならず、広く一般国民にも認識せしめるに足るものとなつたのであります。これらの大事業を無事果されまして稍安堵せられたものか、先生は最近とみに健康を害われたようでありまして、我々も憂慮致しておりました処、旧臘に至り悪化し、年改まります早々遂に不帰の客となつてしまわれたのであります。平素慈父の如き温顔に接し、限りなき敬愛のまゝでありました。在りし日の先生を想い今日なき先生の御霊を前にして惜別の情に堪えません。先生の御霊よ永遠に安らかなれと祈りつつ、大阪府歯科医師会並びに大阪口腔衛生協会を代表致しまして蕪辞を連ね弔辞と致します。

(大阪府歯科医師会々長
大阪口腔衛生協会副会長)



追悼のことば



中原 実

吉崎さんの訃報に接し、私は全く痛恨の極みにたたされた感がいたしました。吉崎さんは歯科大学々長の中でも長老として他人から、いろいろ批判されることのなかつた実に立派な良くできた人として、大阪歯科大学の学長さんとしてより、吉崎さん個人としての人格の高潔さが特に私の印象に深く残っております。歯科界多事多難な時に、まだまだ長命を完うされると思っていたあの吉崎さんを失ったことはひとり大阪歯科大学ばかりでなく、日本の歯科界のためまことに残念至極であります。吉崎さんのことですから後事万端充分の用意をなされておるとは思いますが、ここに御悔み

の言葉を述べさせて頂くと同時に、大阪歯科大学の将来益々御発展されることを御祈りする次第であります。

(日本歯科医師会々長・日本歯科大学長)

岡 本 清 纒

吉崎先生を偲ぶ： 昭和37年6月 Pennsylvania 大学を訪れたとき、L. W. Burket 歯学部長は、ペン大学出身で日本の歯学界をリードしている人々を知っていた。吉崎先生もその一人であつた。先年米国歯科医師会長で団長として来日された Ennis 教授と同級だったと、先生からきいたが、そんな話をするときの先生は、温顔そのものだった。

私は大阪在住14年であつたから、先生にはときどきお目にかかる機会があつた。しかし、とくに親しく話し合うようになったのは、愛知学院大学に歯学部ができてからで、歯科大学々長会議に出席しても、なんとなく兄事したくなる親しみを感じていた。御病氣と知つたのは昨年暮ごろであつたが、ついに幽明を異にしてしまったことは、痛惜の極みである。

現在の歯学教育で重大な問題は、国立大学に歯学部

病 状 報 告

校友会から故吉崎学長追悼号に主治医として病状報告の様なものを書くようにと求められましたので、簡単に病状並びに経過を報告させていただきます。

故吉崎学長御死亡時の病名は肺癌、之に依る全身衰弱のため昭和40年1月19日午前2時0分御死去されました。

初めて学長を御診察申し上げたのは、39年9月11日ですが、その前々日の9日の教授会終了後、夏休みより疲労感と呼吸困難があるから一度診察してくれぬかと御話がありましたが、当日は学長の御都合もあり、11日を約束しました。

11日診察申上げた所見では、全身に特に顔面四肢に浮腫が強く、顔面が蒼白で、脈搏60、緊張良ですが3～4回に一度の結滞があり、心音は正常で第二肺動脈音は亢進し、左胸部下部は前後両面に呼吸音が聴取出来ず、早速X線胸部撮影しましたところ、左肺下葉は不全拡張症又は巨大な腫瘍を思わす陰影

主治医、内科学教授

西 川 元 造

が認められました。この状態では肺癌を第一に疑わねばならず早速入院を御進めし20日より一週間国立京都病院にて精密検査を続けましたが、その結果は残念ながら肺癌とそれに依る気管支の圧迫に依る肺の拡張不全で、既に外科的手術は勿論放射線治療も不可能との結論に達しましたので、先生の御希望に依り退院され自宅で御静養して頂くことになりました。以後は抗癌物質、抗生物質、強心剤、造血剤等の投与と御安静にされた結果、一時的には浮腫も全く無くなり呼吸困難もなくなり、御気分も良くなりました。しかし、11月初旬頃より癌の進展に依る胸痛が強く、夜間も殆んど寝られぬ時が多くなりました。それと共に再び衰弱が加わつて参り、39年12月の末からは床につかれたままで本年に入つて御衰弱が益々加つて参りまして、11月夜半には一時数分間の呼吸停止を見ることすらあり、19日午前2時御死去されました。

がぞくぞくと無計画に、しかも大学設置基準を無視して設立されることである。私学のみに厳しく基準を守らせて、国立の場合は全くひどい年次計画を容認しているなど、歯学教育を文部省みずから破壊している。もし吉崎先生がおられたら、おだやかな態度で、しかも峻厳に当局を叱咤されただろう。この重大なさいに先生を失ったことは、われわれの一大損失である。

かつて戦争前に、小児歯科治療の御講演を拝聴したことがあるが、それ以来私はわが意を得たりの感を深くし、親愛の情を深く抱くようになった。その頃小児歯科の話などをする人はあまりなかつたので、非常に印象的であつた。これは先生がペン大学仕込みの知識をもとにされたものであつたにちがいない。最近、歯学教育基準の試案ができつつあるが、講座制にした場合に小児歯科学は除かれているらしい。新しい学問だから先生がいらないだろうとか、いろいろいわれるが、学問の性格からも当然講座に入れねばならぬものである。吉崎先生がこれをきかれましたら、さぞ憤慨されただろう。学長会議の席上、先生の御遺志でもあるように、白数新学長は講座に入れるべきであると賛意を表された。欧米の歯科事情を知るならば、当然のことである。新しい歯学の分野の開拓に、先生の御加護をたまわらんことを。

毎年のことながら、先生の年賀状をみるのはたのしみだつた。今年もいただいたが、あの筆硯の雄渾なこと、ただ見事というよりほかはない。この賀状を書かれたころは、病状が悪化していたそうだが、うちに秘めた憂快な気宇が最後まで失われなかつた。先生の御冥福を祈る。

(愛知学院大学歯学部長)

山 本 巖

故、吉崎聲信学長はその生涯を歯学教育と大阪歯科大学整備充実に捧げられ、特に世界一の規模を誇る歯科大学を建設されましたことは周知のところであります。

このたび突然の御逝去は惜みてもなおあまりあるものと存じます。日本における歯科医学発展の一つの重要な段階ともなりました。第11回日本歯科医学会総会が去る昭和38年に大阪で開催されました際、先生がその会頭としてこれを主催せられましたが、私はその副会頭として親しく先生に接する機会を得て、その「枯れたお人柄」にひとしお感銘深いものがありました

た。

近來特に歯学教育の重要性が痛感せられます折に、先生が御逝去されましたことを心からお悼み申し上げますとともに、謹んで先生の御冥福をお祈りする次第であります。

(大阪大学歯学部長)

坂 玢

吉崎先生と私：先生が我が国における歯科教育者の第一人者として現代の大阪歯科大学を完成され、歯科医学の発展に貢献せられた功績は余りにも偉大であつたことは今さら申し上げるまでもないことで、国家は昭和39年には藍綬褒章を、また40年には正五位勲三等を贈り、その栄誉を顕賞したのであります。

至誠忠実、ほとんど疲れを知らずの縦横の御活躍があるいは先生の死を早めたのではあるまいかと、傷心の限りであります。

吉崎先生には学生時代から講義を受けていたが、私が、学問的にまた人間的に先生から薫陶を受けるようになったのは卒業して先生が当時付属病院長として就任されてからで、爾來今日まで30余年に及んでいる。その間、先輩、同僚が多数いたわけであるが、自分で感ずる限り、私くらい先生に叱られた者は余り多くないとおもう。それは先生の御氣に召さないことが多かつたことは勿論であるが、先生が歯科一途に献身されていたのに反して、私が一応娯楽とおりを楽しんでいたためであると考えられる。

齡40を過ぎてから、はじめて先生の鉄は赤いうちに打てとのことわざどおり、若いうちに愛の鞭を与えて下さつたものであると、さとることができるようになった。曲りなりにも今日の私にまでお引立て下さつた先生の大恩を考えると、終生忘れることのできない感謝で一ぱいであります。

にわかに巨星を失つたことは学界、母校にとつて大きな損失で、痛恨に堪えないが、われわれ門下生一同



追悼のことは



の心の内に生きている先生の感化は、永久に失われな
いもので、それぞれ本分を尽し、鴻恩にすこしも報
いたいものと念願する次第である。

先生の安らかな永眠を心よりお祈り申し上げます。

(保存学・教授)

柳 生 嘉 雄

吉崎先生が急にお元気が無くなられたので、お歳
のせいなあと噂話をしていたが、まさか命とりの病氣
にとりつかれておられたとは露知らず、先生にいろ
いろと難題を持ち込んでいた。待望の大学院が設置さ
れたとはいえ、まだまだいろいろな特殊研究施設の完
成が要望されていたのである。先生はこれに答えるべく
大きな夢を持つておられ、大学の研究の振興に心を砕
いておられたのである。われわれは大学の使命達成の
ための強力な指導者である先生の御在世中に、その夢
を実現して頂けるものと大きな期待を懐いていた。

ところが昨年末先生の御病氣は癌らしいという噂
が立つて愕然としたのである。まさかそれから1か月
後に幽明境を異にするとは思いがけない出来事だった。
私は先生の峽位叙勲申請のために功績調書を作成して
いて、先生が通算40年間、本学の為にな否わが国の歯科
界に尽された御功績のいかに大きかったことを痛感し
たのである。大学葬の開式に先立つて、私が先生の略
歴を報告する光栄に浴したのであるが、神式の厳粛な
大祭場で笙簞楽の音も絶えて、報告すべく立ちあがつ
たとき、また、また哀悼の涙にくれたのである。

もはや先生はかえらず、現代医学のはかなさよ。

(口腔衛生・教授)

多 和 敏 一

どんな人でも、感情によつて支配されることは避け
られないが、そのことによつて人間関係が美しくもな
り、醜いものにもなる。

また、価値判断も左右されやすいが、自己の利害得

失に関係する問題になると、さらに歪められやすい。

これらのことは、理性によつてかなり制禦されるが、
理性ばかりで処理すると器械のような冷たい人間にな
つて、人々の支持が得られなくなる。

一つの組織を旨く運営する難かしさは、そこら辺り
にあるようである。

吉崎先生は現代では珍らしい非常に暖かい、そして
理念のお人であつた。

(生化学・教授)

福 地 芳 則

恩師 吉崎先生を悼む： わたくしにとり、昭和40
年1月19日は終生忘れることのできない恩師、吉崎先
生と永遠にお別れしなければならない日となつてしま
つた。天寿とはいへ、突然のことで茫然自失、ただた
だ追憶の涙を禁ずることができない。先生とわたくし
との縁は学窓時代はいうまでもなく、昭和10年卒業
以来今日まで慈父とも慕い、また、口腔治療学専攻の
場においては厳格な御指導を仰ぎ、常にその膝下にあ
つて物心両面にわたり幾多の御薫陶を誰よりも多く受
けたわたくしとしては先生の死に直面して心の支柱を
失つたも同然、前途暗たんたるものがあり、その思い
出は余りにも偉大な先生なるがゆえに何から申しあげ
てよいやら、あれも、これもと脳裏を去来するのみで
筆舌でいつくすことはできない。晩年は母校大阪歯
科大学にとつても全学あげての象徴的存在であり、先
生の熟慮断行の信念は何事につけても成らざるものは
なく、今日、天満川畔にそびゆる母校の偉容こそ、そ
の最たるものであり、朝な夕な仰ぐにつけ、今更のよ
うに偉大な先生の傍が髣髴とし、追慕の情を禁じえな
いものがあります。今後は、ただいたらざるわたくし
ではありますが、先生の御遺志を堅く守り、斯道の発
展に全力をあげることを誓い、先生の御霊よ、安かれ
と心から祈るのみであります。合掌。

(口腔治療学・教授)

矢 尾 太 郎

吉崎学長と図書館： 本学は昭和22年6月に旧制大
学に、ついで昭和27年に新制大学に昇格した。単に大
学になるというだけでは、一人前とはいえない。大学
院をもち、論文審査権が与えられて、初めて立派な大
学である。

それには建物はもちろん、内容が相当充実していな
ければならない。内容の必須条件として図書類が問題

になる。

そこで当時図書館長をおおせつかつていた私は、吉崎学長に対して、相当無理な注文を申しあげ、図書館の充実をはかった。

先生には、この間の事情をよくご了解いただき、当時としては相当無理だったかと思われる臨時予算づくに臨時予算をもつて、外国医学雑誌のバックナンバーを、そろえることに、たいへんご協力をいただいた。

私は当時の拝田司書と、たびたび上京して、丸善の本店と交渉を重ね、多数のバックナンバーを購入した。その中には、今日では、とうてい入手できない貴重なものが多数ふくまれている。

まつたく、よい宝を買っておいたものだ。

この点吉崎学長の見先の明に、今さらながら頭が降る。先生は本学図書館の永遠の恩人である。

(理薬学・教授)

中 村 俊 一

吉崎先生のおもいで：学内外の多数の人々のせつなる祈願もむなく吉崎先生はついに永眠された。まことに悲しいことである。静かに目を閉じれば先生の在りし日の思出が次々と走馬燈のように思出されてくる。今その二、三を記して先生をしのびたい。

何と云つても第一に思出されてくるのはあの特徴のある大声での思い切った御言葉である。もう35年もの昔、私は母校に残り初登院の時の先生の御言葉である。「努力デス。努力シテ失敗スレバ後ハ私が引受ケマス」と、経験浅き新副手にとつてそれは何と力強い励しの御言葉であつたことか、私は今もこの御言葉をかみしめて毎年入る新副手にのぞんでいる。

しかし同じ御言葉についての思出の中にあまりに割切つて云われ真意を理解できないようなこともよくあつた。私が入営する時の医局の送別会で先生より「バカナリナサイ」と大声で云われ全くとまどつた思出がある。よく聞けば先生は頭を切り代へて軍務専一に精励せよとの意であることがわかつたが、全く思い切った表現である。

次は先生の信念と実行力について敬服した思出が多い。近時要務で御指示を仰ぐ機会が多かつたが一度「ヤリナサイ」と云われれば困難にぶち当たる程先生は強力に実行して下さる。しかし途中の変更は仲々骨が折れ随分説明に困つたことも多く、一口に云つてガンコな方であられた。

これについてこんな話がある。数年前のある日先生

はしんみりと「僕の近親には癌でなくなつた者が多い僕も癌が命取りになるだろう」と、私は愕然として突差しに「先生はガンコだからガンにはなりません、ガンコでなくなればあぶないですよ」と云つて笑話にしてしまつて、一本取つたつもりでいた。しかし之も今となつては身をつまされる悲しい思出となつてしまつた。

ほんとに吉崎眞信先生は御名の如く信念のお人であり、また数多くの教え子達にそれぞれ深い印象と教訓を残された、大先生であつた。瞑目。

(補綴学・教授)

谷 口 善 之

北の窓辺から
銀ばしをながめ川ゆく舟をながめ
そこはかと思う先生のこと

天というはいかにあるらむ先生の
お眼この^{まなびや}学舎をみそなわすらむか

み黝しのこの学舎の立つところ
つねにぞみたまやどりましてや (解剖学・教授)

白 山 任 男

吉崎先生と私との約束 丁度私が教授に就任したのが30年5月当時院長であられた先生は私を呼ばれ、「君にも抱負があろうが、臨床手術には兎唇口蓋裂これに専念して呉れませんか、もう一つは無痛手術これにも徹してよく考えて下さい」と云われ、私もかねがね考えていたことなので即座にやつてみますと御引受けた。それから丁度10年兎唇口蓋裂の手術に関しては、現在予約せねば入院出来ない状況となり嬉しい悲鳴をあげている現況である。その間に時々先生に御報告を申上げ激励され、また喜んで戴いたことと思つている。無痛手術この件に関しては、入院患者については吸入麻酔により全く無痛となつたが、局所麻酔にて



追悼のことば



は無痛と云うには不可能な場合がある。そこで外来通院患者にも比較的手軽に行なえるようこれが私共に残された使命である。

麻酔学そのものが現在発展の途上にあるとは云え、学長から与えられた宿題が完全に報告が出来ないまま他界されてしまった。私及び教室として残念であります。今後私共の行う仕事を遠くから眺めて戴いて、必ず御満足して戴けるよう心に誓っている。

(口腔外科学・教授)

梅 本 芳 夫

私が本学の前身大阪歯科医学専門学校に学生として入学したのは大正15年4月である。従つて吉崎先生と私が師弟の関係を結んでから40年になる。学生時代は厳格な教育者として又信念に生きている先生として目にうつつていた私の卒業する頃には朝比奈藤太郎校長を中心に飯塚淳一郎教授が教務主任、吉崎誓信教授が付属病院副院長、小野寅之助教授が基礎学の唯一人の専任教授として本学の為に頑張つておられるのに感激し、微力ながら私も本学の発展に生涯をかけようと決心したのである。畑孝一郎博士の御指導で私が東京大伝染病研究所へ派遣され本格的に細菌学の勉強を始め帰校後、本学細菌学教室を創設することになった。終戦後ドイツのカーツァイスの最高級の顕微鏡を購入する時、最初に賛成して下さったのが当時総務部長をしてもらった吉崎先生であつた。又 JEM-SG 型電子顕微鏡を買つていただいたのは吉崎先生が学長に就任されて間もない頃であつた。爾後これらの最新鋭の武器を活用して無菌人唾液による細菌学、免疫学的研究が広汎に発展して行つたのである。先生は昨年夏頃から急に弱られたが病臥中一言の苦痛の言葉も出さず、後事を後継者に托し長年の援助に謝辞を述べられ、眠るが如く80才の生涯を閉じられた先生に私は古武士の面影を見るのです。

(細菌学・教授)

中 村 正 雄

若かりし頃、仕事で7日ばかり徹夜をし、そのあと2、3日ねたことがあつた。その折、先生は「あまり背のびして、無理をしなさんな」と、さとするように慈愛あふれる御見舞をいただいたことがある。

その後、先生が大学の仕事で無理をしておられる様なことが、みえたので「先生少し無理ではありませんか」と申しあげた折、しみじみと話されたことは「無理かなー、無理はしたくない。併し大学は今、歴史の流れのなかで激流に棹さしている時だ、乗りきるか!! 流されるか!! 私は船頭として、なにかなんでも乗りきらねばならぬ、さすれば、後は無理をしなくてもよいであろう」との言葉であつた。私は先生のこの固い信念の程もわきまえず、うかつにも色々批判めいたことをいつた。その時先生は声を大にして「ただ一すじの棹!! 誠の棹さえあれば必ずやれるのです」

私にとつて忘れる事のできない言葉である。慈愛のなかに厳としたきびしさのあつた今は亡き先生を、静かに思慕しつつ筆をおく。

(矯正学・教授)

二 瓶 一 郎

私は吉崎学長が任用した最後の教授となつた。先生に接したのはこの時が初めてです。極めて短い期間ながら傑出した御人物から感銘するものを多く受取つた。その中で信念と実行力を身をもつて示されたことは心に深く刻まれた。

さて先生が御苦心なされたものに歯科理工学教室の建設があつた。それを未熟な私がお引受けして薄氷を踏む思いだつた。幸にして整備が予定の期間に間にあい、建設についてはある程度まで御満足いただいたと聞いている。だが本当に御満足いただけるには未だ道程があるのに、もう幽明境を異にしてしまわれた。しかし、御在天の御霊は常に御照覧あるものと信じている。これより歩みを進めるにあたり、先生の信念と実行力をもつて教室の発展に努力しその具現に邁進することを御霊前にお誓いするものです。私は追憶でなく新しい決意を述べて先生が安らかに神鎮まりますことを祈るものです。

(歯科理工学・教授)

新 池 保

本学では昭和33年以来、毎年12月に動物慰霊祭を催し、実験や実習のために犠牲となつた諸動物の霊を祀り供養を行なつている。「小さな命といえども粗末に

せず、その犠牲に対して感謝と敬虔の誠を捧げる」という吉崎先生のお考えから始められたことである。

昨年12月5日第7回動物慰霊祭を催したが、毎年欠かさず出席された先生が御病氣のため遂におみえにならなかったことは返す返すも残念なことであつた。その翌日先生の藍綬褒賞受賞祝賀式でお目にかかつた時、動物慰霊祭のことを報告すると「是非行きたいと思つたが、しんどくてどうにも仕様がなかつた。残念だつたが欠席した……。」と苦しそうなお話で話された。その短かいお話のなかにも、先生の我慢強さ、意志の強固さ、不屈の精神力が感じられて、思わず目頭の熱くなるのを覚えたのであつた。(生物学・教授)

肥 後 政 平

吉崎先生あの元気な御声咳にはもう接することができない。先生に初めて御目にかかつたのは、本学に小生が勤務することになり、最初の辞令をもらつたときであつた。それからすでに10年ぐらいになるがつい最近のことのように思い出される。それも過ぎし日の思い出にすぎなくなつてしまつた。先生は長生された方と言える。だが、それによつて我々の胸の中の悲しみはやわらげられはしない。人間はいつかは死ななければならないということはよくわかつており、また人間の力を超えたものを認めねばならぬであらう。でも我々の悲しみはどうにもすることができないのである。(倫理学・教授)

竹 内 新

吉崎先生は本学が戦後、専門学校から旧制大学、新制大学そして大学院と飛躍的に発展をとげた時期の数年間を学校法人専務理事兼学長としての要職を勤められた。その古武士に似た独特の御人格と御自身の囲碁(有段者)の御手並に数等まさる大胆で細心の策によりその困難な重責を果たされてきた。一般に組織は進化するもので、進化しなければ退化するものである。が進化の道をたどつてもマンモスの様な巨大組織をもつ種になつてしまえば滅亡しなければならぬ。大学組織も進化すべきものであらう。本学が現在建設されたこの立派な諸設備を基に如何に組織化し運営されるべきか、その方策を立案し実行する業を果し得ずに、最後まで精神の強さを示しながら御闘病になつた先生の心を思う時、暗然とせざるを得ない。本学の健全な発展

を祈りつつ先生の卦に哀悼の意をささげたいと思う。
(物理学・教授)

外 海 啓 一

私が本校に務めて2年ほどたつたある日、病院の薬局にいたら、吉崎先生から、外海君ちよつと話があるのだがといつて呼ばれ、いきなり君は結婚しているかねと聞かれた。当時私はまだ一人だつたのでその通り答えると、実は結婚の話しだが、ときり出された。全く驚いた。今でこそ教授会その他のことで顔を会わせる機会も多くなつたが、当時本校勤務の私は病院におられた先生と顔を会わす機会もなかつたし、ましてお話をしたことなど一度もないのに、急にこんな話が出たので。相手は当時病院に務めていた人だつた。その頃の私は、故平田教授の下でのんびりとしており、暇があると病院の薬局まで出かけて、歯科用の薬品について調べると共に、無駄話に花を咲かせていた。当時私は薬局とは直接関係がなかつたのによく顔を出していたので、何か魂胆があつて病院へ来ていると思われたのかも知れない。早速平田教授に相談すると、一言の下に相手が誰であつても、同じ所に勤めている人と一緒になるのは感心しないと反対された。内緒事ができないから困るだろうと、付け加えられた。そこで数日たつて吉崎先生に、先日のお話は誠に有難いのですが、実は……とお断りした。すると先生は、君のような好青年は何時までも本校にいてもらいたいのので良い相手を世話してあげようと思つて、と言われた。当時の若い私はこの言葉に感激し、またうめぼれたりした。この時から一見とつきにくく、気むつかしそうな吉崎先生が、実は思いやりのある人だという印象を強く受けたし、吉崎先生を知つたのも、この時からである。これは今から15年ほど前の話です。(化学・教授)



追悼のことは



宮 野 昇

吉崎先生と私：8回生の私が付属病院へ勤務したのは卒業後の8年間、それは副手助手助教授としてであり戦後は講師として今日までである。若い頃の私が先生に認めて頂いたのは家で洗濯したカラーと、家から持参して行く弁当の為であつたらしい。頭がよくない才能を持たぬ私は生真面目に、ひとの三倍、五倍の繰り返しをしなければならなかったのであつた。先生の教育方針は決して秀才教育でなかつたと思う。私は先生のモルモットであつたかも知れない。モルモットは先生の死の床にかしづいて「私は先生の仰せの通りにして今日倅になりました。」併し何の御恩返しも出来なくて申し訳ありませんでした。と心から申し上げたのであつた。また封建的家庭の悩みを持っていた私は先生に救いを求めて天行居に入り先生の筋金入の信念の故郷をそこに見たのであつた。とは申せ古神道の信仰者であられる先生はアメリカ生活20年の体験者であられ家庭中心のフェミニストでもいらした。先生御夫妻の供をして神社参拝をする途上先生は奥様に「貴女」と言つて話されるので、私も家内に「お前」とも「オイ」とも言えず愚妻の失笑を買つたことがある。先生の御逝去は直に来る悲しみでなく「死」の意味を長くかかつて悟られるような深いものである。(専8)

鶴 身 紀 雄

吉崎先生逝去の報に接してから、早や1ヶ月が過ぎ、しのびよる春の足音と共に、卒業式と国家試験が目前にせまつてきた。思い返せば、この6年間、吉崎先生に接したのは、数える程でしかなかつた。入学式、毎年の文化祭位のものであつたろうか。学長という激務の中にあつては、学生と接する機会や時間が少いのは当たり前かも知れないが、何かしらもの足りないものを感じたものである。然しながら、4年になつて口腔治療学を習うようになり、その教科書に先生の名前を見出した時には、少なからず感銘を受けたように憶えて

いる。福地先生の講義中に出てくる吉崎先生の話、それが教科書の活字と一緒になつて、歯学に対する先生の学識と高大な人格とが、ひしひしと胸にせまつてくるのを感じたものである。又、学校だけでなしに、家でも吉崎先生を崇拝していた父から、若い時に指導を受けたことをしばしば聞かされ、先生の偉大さを改めて感じさせられたものである。福地先生や父を通じて僕を感銘させた先生の高邁な人格は、これから先、いつまでも折にふれ機をみて、歯学に対する僕の心のよりどころとなるであらう。

謹しんで先生の御冥福をお祈り申し上げます。

(6年)

宮 脇 祖 順

トゴトの神呪：私たちの病院生時代に吉崎先生が院長として再度就任された。

時に昭和18年、大東亜戦争酣の時。

私たち25回生は正義感もあつたが、反骨精神もあつた。戦争にも協力したが、権威に屈しないという気運も強く、スジを通して行くというところがあつた。

そのようなことで、吉崎院長とは勅語誤読による院長謹慎事件や信太山演習にからむ病院生の大量無期謹慎事件などが起り、吉崎院長とは大いに対立したものの、それが却つて院長と私たちの精神的結びつきを強めたと思う。

当時吉崎院長が私たちに常に訓誡を垂れ賜うた言葉にトゴトの神呪「アマテラスオオミカミ」がある。

「君達が困難に遭遇したとき、このトゴトの神呪を唱えよ、必らず神の加護があろう」これが吉崎院長の御託宣であつた。

その当時は私たちも大分神がかりであつたようで、このトゴトの神呪を盛んに愛用したが、これという神の加護もなかつたが、とにかく戦争に生き残つただけでもトゴトの神呪の加護だつたのだろうか。合掌

(専25)

鶴 身 貫 三

昭和2年4月大阪歯科医専2年生になつて、口腔治療学の講義を受けたのが吉崎先生と会つた初めである。特徴のある口調と、熱のはいつた講義で、時間中に横を向いたり、欠伸をしたりすると、大声で怒鳴り散らされたものである。言わば悪い先生としての印象が強かつた。昭和5年卒業後當時天王寺区烏ヶ辻町にあつた付属病院に勤務することになり、学校を出たばかり

の私は臨床経験も浅く、保存補綴学を問わず解らないことが多かったでの、その都度当時副院長であつた吉崎先生におたずねしたのであるが、いつの場合でも即座にしかも明快に答えていただいて、その学問の深さに自然に頭が下ることが毎々であつた。この頃から吉崎先生に対する敬愛の情は、むしろ崇拜の感情に変わってくるのを感じた。

先生は奥様と御一緒に寸暇を利用して時々温泉に行かれたようですが、温泉行きと言え、所謂レジャー気分で行っているのではなく、日頃の忙しさから離れて、落ち着いた気分勉強する為に行つておられたようです。昭和6、7年の頃ですから、まだ御令40代の至極お元気な時代で、病院、御家庭をとわず、暇さえあれば読書に親しまれている御姿が目に見えてくる。又、折にふれて、院内での学生指導の有り方、開業すればこういう心構えで等々、慈父のような親切さで話していただいた数々の御言葉が、30数年後の今日、一言一句胸裏に深く刻まれている。

先生はお若い時より、卓越せる学識と、高潔なる思慮と、不動の信念をもつて、終生歯科教育に絶ての情熱を傾けてこられたと言える。先生が心血を注いで建立した母校の偉容は、先生の偉大な業績を讃えるように、永遠に輝きわたることでしょう。

謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げる次第であります。(専10)

日 野 金 二 郎

吉崎先生とわたくし：吉崎先生に初めてお目に会ったのは大正10年私が大歯専へ入学した1年の二期のことであつた。当時7人のドクトルが教授として就職せられたが僅か一学期で7人の先生は又同時に退職せられた。先生は真面目な何事にも熱心で当時学生から親しまれていた。卒業後は終戦後即ち昭和22年私が南海鉄道病院へ院長として勤務するに及び歯科外科の必要性を感じ、当時付属病院長であられた先生にお願いして外科部長の七浦幸七先生を週に一回、午後南海鉄道病院へ出張して戴き直接指導して戴いた。私共の今日あるは両先生のお蔭だと今も尚感謝している。又医員を交代で病院の各科へ見学に行くことを許可して戴いた。学長になられてからも同様親しくして戴いた。厳格な反面情の厚い先生であつた。金沢の白雲楼で学長や七浦先生と色々お話した当時のことが今更の様に思い出されて殊の外懐しい。老少不定と云うこと

があるが七浦先生は若くして他界せられ、吉崎学長も今はなし呼々惜しむべきかな。先生の残された数々の御功績は東洋一の学舎と共に永遠に天満河畔に残ることでありましょう。謹んで先生の御冥福を祈りつつ筆を止む。(専5)

市 村 隆 三

付属病院が鳥ヶ辻にあつた昭和7年の夏、当時の医局員は近くの仕出屋から昼食の出前を取つていた。私の給料は25円昼食代4円位確かに払つたと思つていた時、先生から仕出屋は利の薄いもの払つてやれよと声がかかつて、私おうとするともうもらつたと云う、直ちに御返したが、先生が人の事をこの様に考えて居られる事には心を打たれた。

又付属病院が京橋に移転した昭和12年の秋、私が口腔外科に所属していた時の事、卒業生からの紹介入院患者と一外科医員との応待が冷酷だと苦情が出た事があつた。先生は外科医に分らない様「話しおつけましょう」と出向かれた事もありました。又その頃医局員全員と云つても17、8名だが、毎月積立て春秋2回一泊旅行する事を恒例としていた。私はよく会計をさせられ、旅行の終つた翌日「先生お疲れでした」と挨拶に行くと第一声が「どうだ足りたか」だつた「これこれ不足です」と云えば必らず不足分がもらえたものだつた。これ等は私が勤務していた15年間のほんの一部の事でしか有りませんが、皆が吉崎先生は信念の人、努力の人とは周知の事実であります。先生にはこの様な温情のある一面も有る事を知つて戴きたい。思い出として書いて見ました。(専11)

日 野 満

大阪歯科大学大学院の建設という大きな御足跡を残された故吉崎学長、80年という歳月を神への信仰をもつて、常に強く闘いぬき、御自身の信念を守つて退か



追悼のことば



れなかつた先生は、今その情熱のすべてを焼きつくして、天なる神の国に召し還らせられました。再び先生の御温顔に接することができないと思うと、人間情別の悲しみを一層深く感じずにはいられません。しかし先生の死は、私達に燃えつくした焔の美しさを感じさせます。先生はきつと我々大学院に学ぶ若鷺どもが、次々と巣立ち大空を羽撃く姿をみることを楽しみに待っておられたにちがいないと思います。偉大であつた先生を失つて、私達は数々の心残りの念と悲しみの思いに沈まずにはいられません。しかし先生のいのちは、私どもの心のなかに、永久に、根強く、生気を漲らせて生きつづけていきます。私どもは、先生を失つた悲しみをのりこえて、先生の御意志を継ぎ、先生の残された御諭しを胸に留め、歯学の道に励みます。それが今は亡き吉崎学長のみ霊を安んずるただ一つの道であると思います。師弟、兄弟、力を合せて、新たなる勇心をもつて前進することを御霊前に誓い、謹んで御冥福をお祈りして、お別れの辞といたします。

(大学院生)

西村典三

吉崎先生がついに亡くなられた。例えようのない淋しさが胸に迫る、巨木が倒れるという表現そのままの、先生は80才という御高令ではあつたが、先生の周辺には不思議と若さがあつた。先生こそは不死身であると常々思っていたが矢張り来るべき時が来たのである。

先生も私も同じ河内の生れで、中学も同じ八尾中、その上、先生の甥(専30)とは中学時代からの友達であつて、ことのほか御昵懇にいただき、文字通り慈父の如くに甘えもし、お慕いもした。先生はよく「河内人の根性、という言葉をお口にされ、何事に対しても、信念をもつて努力すれば必ずや実を結ぶものであると、不勉強な私を励まして下さつた。

先生が信念の人であり、古武士の風格を備えておられたことはなにびとも知るところで、わが大阪歯大の

今日の隆盛も先生のこの気力と実行力に負うところ絶大なるものがあり、その御功績は永く本学の歴史の上に輝くことであろう。

最後に、先生の御冥福を心からお祈り申し上げるとともに、先生から受けた教えを休し、御恩の万分の一でも報いるべく今後の精進を期したいと思う。

(専31)

今村外次

昭和40年1月19日午前2時大阪歯科大学々長吉崎誓信先生は八尾山本の自宅において肺ガンのため終焉して80年の生涯の幕を閉じられた。病苦はそうとうあつたと思うが臨終まで一言も苦しいことを訴へられず安眠されたことは先生の生涯を通じての頑張りと忍耐が最後の最後まで続いた立派な往生と申上げたい。

人間の価値は棺を閉じてはじめて定まると昔からいい伝えられている言葉があるが、隠忍を以て長き生涯を閉じられたといつても過言でない。

歯大に就職されて後40年間もくもくとして学校の発展育成と校友の和を念願され、晩年に到り学校建設に重用な役割を授られ蔭に陽に大事業の貫遂に一身を投じてこれらの問題に対処され、持前の粘と誠実さをもつて一つ一つ解決された偉大さに感銘を深めている。開校以来幾度かの難局も度々ありその際ごとに一身を犠牲にして、絶体他人に迷惑を及ぼさない精神のもとに事を運ばれた、その精神こそ今後幾星霜経ても歯大の将来に輝しい教訓として、又吉崎だましの結果として尊ばれるであろう。

今はただ先生の御冥福を心からお祈りするのみです。

(専5)

野口隼人

大正15年卒業の私達七生会一同、吉崎誓信先生の御逝去を、心からお悼み申し上げます。

朝比奈藤太郎校長、飯塚淳一郎学長に次ぐ学長として、ともに大阪歯科大学を、今日あらしめた、偉大なる指導者であり、又学会の権威者であつた、ありし日の先生のお像を偲び、追慕の誠を捧げます。私達は直接先生の御講義を、生野の木造の学舎、烏ヶ辻の民家の様な病院で、お受けしたのは、殆んど僅かな時でありましたが、私は朝比奈歯科医院々長室に、飯塚先生とお揃いで、又白数美輝雄先生、森田信、山田信義のクラス代表とともに、毎日のように学校新築移転其の他色々の協議で来て居られて、先生にはよくお目にか

かり、笑顔を向けて下さる先生の様に私もあり度いと願つて参りました。青野房次郎、工藤陽太郎、飯塚淳一郎、吉崎誓信、榎原猷曹の諸先生方は、朝比奈門下生の秀逸の方々と承つて居ります。これからも先生の様にあり度いと更に願い、努力いたし度いと思います。

先生の御遺族の上に、天のお恵みが豊かならんことをお祈りいたします。(専7)

山 口 英 雄

吉崎先生は、きびしい反面、大変やさしい先生であつたと私は思う。私が在学中の出来事で、クラスである事件があつて、(今その内容は思いだせないが…)先生の自宅まで、あやまりに行つたことがある。その時の先生は、きびしい中にも、あたたかいやさしい態度で話されたことが、今も深く印象に残っている。私が大阪府の病院診療所の係長の時、病院を新築するについて、吉崎先生と七浦先生と話しあつたことが、ついこの間のこのように思われるのに、両先生共他界されて淋しく思う。学長室に入つて行くと、いつも愛想よく、なごやかに話し下さつた先生のお姿を、再びみることができなくなつた今は、感慨無量です。

合掌 (専23)

天 津 芳 男

卒業後私は就職を考え岩田ドクトル其他へ面接に行つたが、午後四時迄勤務で月給四拾円位、最後に本町一丁目開業の吉崎医院へ行つたら、先生曰く私の処は誰も続かない、若したつてとならば無月給加ふるに保証金参百円持参せよとの事だつたが、何かしら引きつけられる様な気になり、よし此処で不勉強を取り戻し立派な臨床家に仕上げて貰おうと決心し、其場で弟子入りを願つた。

其時先生が云われるには私等夫婦は二週間位箱根へ避暑に行き9月初めに帰る、それから勤務しなさいと言われた。待ちわびている処へあの関東大震災、震源地は箱根との号外、驚き安否を気遣い留守宅へ駆けつけた。留守居の令兄から只今夫婦共馬に乗り無事三島迄降りたと云われ大喜びした。9月初旬落付いてから勤務していたら保証金はいらぬと云われ無月給の約束にも拘はらず生れて初めての月給参拾円を貰ひ涙が出た。爾来40有余年益々師弟のつながりはこまやかに毎年5月先生の誕生日には門下生相集り嬉々として談笑

するのが例になつていた。恩師亡き今となつてはそれも出来ないかと思えば実に淋しい感とする。此上は只先生の御冥福を祈るのみである。(専4)

藤 井 井 次

牡丹花の咲き定まりて静かなり

花の占めたる位置のたしかさ 木下利玄

初めて臨床実習に入る登院式のとき、当時病院長であつた先生は私たちにこの歌の精神についてこんこんと説諭された。ところが大学創立を期して学園改革を図ろうと、馬車馬のように盲進していた血気さかんな私たちにはこの歌の真意を理解する余裕などさらさらない。点数やケースでわれわれをしばるとはけしからんというわけで、早速、代表数人が院長室に乗りこんだ。

「点数やケースでしばるのならわれわれは明日から病院を休むつもりでいる。」

先生一向に動じる風もない。あつさり「そんなことに拘わらずにのびのびとやりなさい。」拍子抜けがしてそれ以上追求する気力もなくなり会談はわずか数分で終つてしまつた。

先生がわざわざ登院式にこの歌を持ち出されたのは「自己の地位と責任を自覚してむやみにバタバタするな。」ということを示唆するためであつた。先生の残された言訓はこのほかにも数多くある。その一つ一つを噛みしめながら、私は今さらのように敬慕の念を禁じ得ない。(大1)

後 藤 美 基

私が大歯専2年生の時、クラス会で吉崎先生の真似をした事が先生に知れ、教壇に立たされ「あなた、私の真似をやつて御覧なさいませ。間違つたら直してあげるデス」と叱られた? 時から先生と私との奇妙なつながりが始まつた。そんな事から私は4年生に成つ



追悼のことば



ても吉崎先生が副院長をしている付属医院に行く事が
どうも気が進まなかつたのに、その先生が私を院長室
で呼んで居ると聞いた時の情無い気持は今でも忘れら
れない。

仕方なく私は服装を正し、神妙な顔付きで扉を叩い
たのだが、そこで私を待つていたのは先生の叱責では
なく、金床の患者を特配しようと言う温い思いやりで
あつた。

それ以来、私は完全に先生のとりこと成り、何かと
お世話をかけたものである。先生に強いて剣道部長を
お願いした時も、予算の少い部のために、私の捺印一
つで5人分の防具を自費で購入して下さつた。私がそ
の報告を兼ねて御礼にうかがうと、「あれは差上げた
のじゃない貸して上げたのだから、部費が刺る様な時
が来たら返して呉れたら良い」と、私達に気を遣わせ
ない配慮までして下さつたのである。

その有難い借金も、今は永遠にお返しする術が無く
成つてしまつた。嗚呼！

(専10)

岡 博 巧

日を経るにしたがつて淋しさが残し越し方の事
等が父を失つた時の様なそれ以上の淋しさが何くれ思
い出され誰しも一度は越えねばならない生死の事、嚴
肅な思いで一杯です。在学中教え導かれ訓された尊い
お言葉の数々が思い出され尚特に淋しさが加わります。
大歯入学当時上級生の話「吉崎先生はノートが取り難
い臨床家となつて一番よく思い出す講義だから頑張
つてノートを作る様」と注意され、卒業後25年を経た
現在でも尚毎日の臨床に生きている事が多々あります。
歯科界に於ける学者であると共に立派な教育者でもあ
つたと思います。先生は人を一度信んずると絶対に節
を変えない方でした。先生に永らく空席のままの予科
長の席の事をお尋ねした時「某先生の為に何年でもこ
のポストを空けて待つて居る」と承つた事があります。

信義を重んずる古武士の風格を備えた先生の断面を
見る思いで感に打たれました。先生の思い出は次々と
泛び涙を止めるすべもありません。先生御在世中残さ
れた数々の御薫育を守り大阪歯科大学と共に我々19期
生一同も榮えん事を期します。先生どうぞ安らかにお
眠り下さい。先生の御冥福を心からお祈りいたします。

(専19)

上 領 翠 山

春浅し 輝く星の一つ落つ
水の都を 発ちていつこえ行く千鳥
君逝て この春寒のひとしおに
欠しまま 静かに春の星となる
革手袋 ひやつと友のまた欠り

花は散つても咲く日があります
月は欠てもまた盈る刻が来るでしょう
だが あなたの眠りは もう覚ないから
天満の学舎は 虚ろとなり
牧野の丘は 肅寂としています
ただ 只 追憶の泪に咽ぶのみ
しかし あなたの 後につづく者は
あなたの 死を 決して無駄にはしないでしょう
どうか 安らかに眠つて下さい。

(専2)

前 田 勝

吉崎先生と私：大正14年4月生野国分の学校に入
学し二年生になつて吉崎先生の授業を受けたのが先生
との関係初めである。それから40年間学生時代は卒業
まで3年間だつたが、その後は相撲部長としての先生
と我々相撲部O・BがO・B会を作つてから殊更に先
生に相撲部出身者との縁は深くなつた。戦時中、戦後
を通じ亡き森田淳一先生と共に相撲部を守つて戴き現
白数部長に続いている。相撲部長が続いて御兩人共学
長になられたのも相撲部関係者として痛快極まりない事
である。現在百数十名に余る相撲部O・B連中が学生
時代は小遣がないと言つては先生にたかり世話をかけ、
卒業後はその連中が何かと言ふと必ず会合の時には先
生を引張り出し、先生も他の会合は断つても必ず相撲
関係の会合には出席された。私は学生時代相撲計りと
つていたが、それでも私は今でも先生を忘れ得ぬのは
2年後期の治療学の試験で百点満点を貰つた事と、病
院生で卒業一週間前（昭和4年3月15日）に先生の代

理として当時大阪第四師團司令部付少将（名前は忘）を大法院内の少将公室に往診に独りで行かれ、付添の中佐殿に足踏エンデンをふまし治療して来た事があるが、先生でなければこんな学生の自分を往診に行かせたりする芸は出来ないだろうと思うとあの先生の温顔その後に森田淳一先生と共に私の目前にうかんで来る。ああ吉崎先生。（専9回）

全日本学生相模連盟副会長
西日本学生相模連盟 会長
大阪歯科大学相模部O・B会長

木 村 一 平

吉崎先生と私： 私が昭和4年母校に入学を志し受験生として面接試験を受けた時の先生が入学後吉崎先生であつたことを知り、これが私にとってこの世でお目にかかった始まりであつた。

教授としての先生からは歯科治療学を教はつた。患者に対しては常に確固たる信念と誠意を以て行へば難治と思はれるものでも必ず成功するものであり、患者からも大いに感謝されて一生慕はれるものである、と申され、以心伝心に就て実証的な話があり、当時系累に一人の歯科医師もいない私にとっては非常に感銘深いお話であつた。これが在学時代の思い出であり、今も胆に銘じて臨床にはげんでいる次第である。

卒業後は幸にも母校の職員の末席に加えていただき当時付属病院長だつた先生の声咳に接する機会に恵まれた。最近根性という言葉が各界で見直され一つの流行語になつているが、私はこの時期に技術的な面と共に歯科医師としての根性をきたえて下さつたことは今日に於ても深く感謝している。これが在職時代の思い出である。

終戦後私は現在の民間病院に勤務することになり爾来たえず母校のバックアップを得ているので母校を訪づれる機会が多く或る時、学長としての先生から次のようなお言葉をいただいた。

歯科医師が義歯床やインレーを上手に作ることはのぞましいが、そうだからといって得々然とするようではだめだ、歯科医師である前に立派な人間であることが最も必要なことであると強調いたされた。最近、政府は理想の人間像の規格を発表したが先生は早くから規格によらない立派な人間の育成に思いをいたされておられたようである。先生は臨床に於ては神技を、学者としては広く深いうんちくを、学長としては優秀な

歯科医人の育成のみならず、経営管理にらつ腕を、そしてけい眼一世に先立つ偉大な先生の今はなき面影を偲びつつ私なりに思い出のお言葉を書きつつ次第である。

終りに臨み御生前の御指導に対し深く感謝すると共に御冥福をお祈りいたします。（専13）

土 居 信 久

空襲下の故吉崎学長： 今から数えて20年前、昭和20年6月15日大阪市空襲の第2回目の私と筆本君（専15）とが天橋畔の大阪歯科医専（当時）付属医院の宿直明けの当日の物語りであり、今からいえば笑い話かも知れない。大阪歯科医専付属医院の防空防衛詳報をお伝えして、今は幽明境を異にせられ、世界に冠たる付属病院の上に高く燦然と輝く星として見守るであろう吉崎先生への追憶の資料となれば幸と思う。因に奇しくも第1回空襲大阪市大被害の今年6月6日も筆本君と宿直日であつた。当時私は筆頭宿直員として、付属医院防衛の責任者として、当時の飯塚学校長に報告申し上げた書類の写しが書庫の整理中発見したものであることを申し上げたい。（以下報告文）

「昭和20年6月15日の空襲に際して付属医院被弾防火詳報」報告者、筆頭宿直員、土居助教授。

警戒警報発令…午前7時50分。

空襲警報発令…午前8時15分。

空襲警報解除…午前11時40分。（其間3時間25分）

防空従事者……指揮 吉崎院長

A. 前夜より宿直職員、土居、筆本両助教授、前田使丁、佃看護婦。

急拠登院職員、加藤肇教授、赤塚救護副隊長（医師）

B. 前夜より宿直生徒、第3学年、第1小隊第4班長城山以下9名、及び上番口直生徒覚道中隊長外4名。急拠登院生徒（4年、大高、前田、其他3年稗田外16名、教職員6名、計22名）。

空襲時の防空防火上の情况



追悼のことば



1. 不利なりし条件（省略）
2. 利なりと認めらるる条件（省略）
3. 遺憾なりしと思はるる事項（省略）
4. 警戒警報発令時の配置併に処置其他（省略）
5. 命令

吾等はラヂオの情報に基き7・11目標の敵機は主として阪神地区を襲撃せんとし紀伊水道及び、土佐沖にて旋回集結中なるを知る。之等敵機は主として、大阪方面を空襲の模様である。此の空襲にあたり一同団結して吾等の病院を死守せんとす、絶対に戦火を防げ、病院を焼くな、然し各員は、各機会遭遇に際し冷静な判断のもと、不要なる負傷に注意し初期防火、特に飛入せる焼夷弾の消火を望むと共に陸軍病院側よりの延焼防止に努力せよ。最も延焼し易き位置としては三階教室、外科室、病室、看護室、中二階細菌室、三階補綴医員室、材料室、治療室、一階は技工室、物置室材料置場、令診室等、熱気を調査し窓付近に可燃物があれば取除き、水浸しとせよ。以上

1. 空襲時の情况

空襲警報発令と共に周辺部造幣局付近本院東南部、東部方面に渉る爆発音を聞き引続いて雷鳴の如き不気味の数千の音響を聴取するや火災発生し一天俄に曇り夜間を想はす黒煙は天に沖するを見ると共に次第に、爆音我等の院上空に及び頭上に近接し、その無気味さ云はん方なし、9時、第1回燃夷弾が本院付近に落下するや窓外を見渡せば青白色の「エレクトロン」焼夷弾無数落下し、焔は恰も千本立の蠟燭の燃ゆが如く直

ちに隣接せる陸軍病院隔離病棟を覆いたり、第2回落下の際は既に陸軍病院は火の海となり十分後屋上燃焼し、第3回落下30分後の際は既に病棟大半焼け落ちていた。第3回落下後敵機の爆音遠ざかり空襲の終末を思はれた。第1回空襲を知るや一応学生併に教職全員地下室に退避を命ず。土居、筆本、院長室に静座し、黙禱さる、如き姿勢をなせる吉崎学長に、地下に全員退避の報告と共に、院長の退避を要請すれ共「余は院の運命と共にす」とて頑として、院長室より退避せず空襲終了の時迄、院長室を離れず。此時指揮命令を待たずして生徒待避所より消火に飛出さんとす、「未だ待て」と静止させた。落下せざるを確認約10分後筆本助教授の命令にて、至近弾の遠のきたるを認めると同時に、院学生通用門の防空壕の水溜よりポンプを以て、桶に送水し、バケツには各階に「リレー」し水浸しとした。此の時突然城山、稗田以下6名のポンプ係より約5米付近に爆弾落下窄烈した。同時に学生をヤツタなど思はれたが、走り寄れば一名は水壕内に（森永）他は院内に退避し、一名の負傷さえなかつた事は天裕であつた感謝の他なし。以後爆音なきにより送水注水を続け陸軍病院の火災の延焼類焼を防ぎ窓に注水した。其後各階に延焼の恐れ有るヶ所に看視を立てた。此時加藤教授来院す。以後加藤教授、吉崎院長と共に院長室にありて全員の指揮者となる。筆本、土居、助教授は院外東西部の防火の指揮をなし、特に筆本助教授は屋上の看督防火指揮に当る。屋上の燃夷弾計248個を数う。陸軍病院の焼尽する頃より負傷者を搬入し来る。赤塚医師、佃看護婦この処置に当る。3時に上番当直七浦、高田両助教授に事務引継ぎ完了す。（中略）

以上報告文中の省略記であるが、当日の吉崎学長の院長室の姿が未だ眼の中にある。被爆の中心地の我が大阪歯大旧付属病院も大阪府庁舎と共に耐え抜いて厳然と白聖の殿堂として、一は歯科医学の大本山として、他は府民生改の中心として永遠にそびえ立ち続けることであろう。（専11）

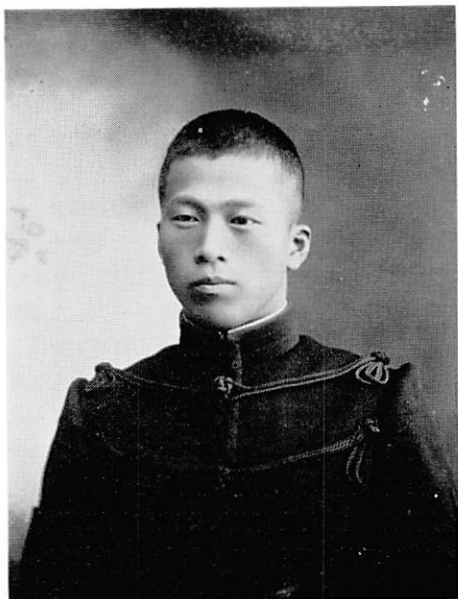
白数美輝雄教授学長に就任

学校法人大阪歯科大学では吉崎誓信氏の逝去にともない、昭和40年1月20日付をもつて白数美輝雄教授を学長に任命した。

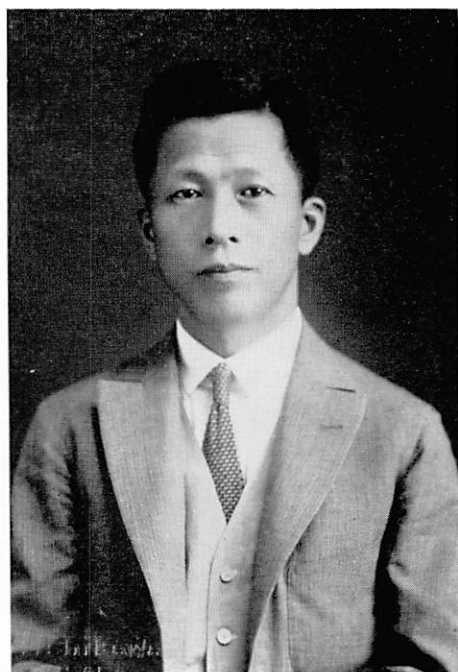
新学長はすでに学長に選出され、4月1日より就任の予定であつたが、ただちに前学長の残余期間も含め、学長に就任されることになつた。

白数学長は本学6回卒、本学卒のはじめての学長として各方面から希望をもつて迎えられている。（詳細は次号で）

故 吉崎先生のおもいで



日露戦争時代の吉
崎先生。従軍して勲
8等を受けられる。



アメリカより帰朝さ
れた頃の写真

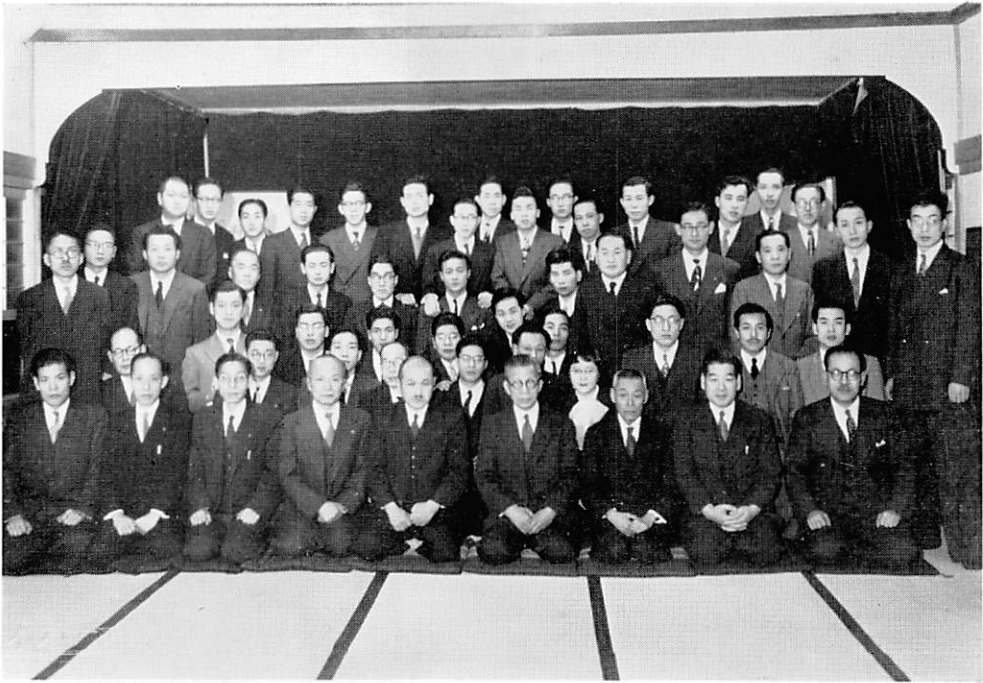


天虎飛行場で（昭18.12）
前列左から小野，吉崎，
飯塚各教授，川口大佐，
後列白敷教授

大東亜戦中，院長室
で，頭髪は丸刈り，当
時の模様は本文中の土
居先生の記事を参照さ
れたい。



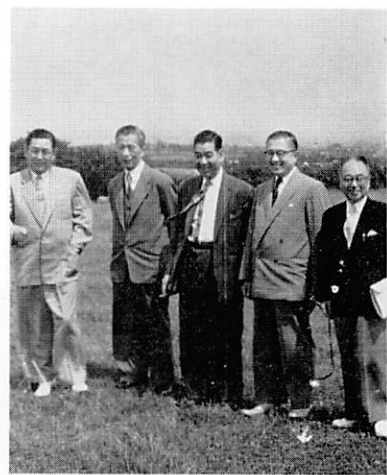
昭和26年夏，戦後は
じめて外人教授を迎える。
エニス（吉崎先生と
ペン大同級生），チルマ
ン，パッフエンパーガーらと



昭和29年の病院忘年会の記念撮影。 故 内村，七浦，平田各先生の姿もみえる。



昭30年，故森田予科長と住友寮漿水園にて
開基に興ず，同席するのは西奥喜与志氏。



昭和33年北海道の学会で，白数，矢
尾教授，東園松宮氏，鹿島氏らの顔
がみえる。



昭和35年飯塚先生、
奈良県校友会員らと飛
鳥旧蹟に遊ぶ。



上、右 学長ならびに校友会
長として母校50周年式
典であいさつする吉崎
先生。





大学葬（遺族と葬儀委員の）記念撮影

喪主

吉崎 久也

（順不同）

裨田 豊治	松島 税	中川 馨	筆本 新一	北川 正夫	野阪 暁	石井 正保	竹内 茂	磯島吉之祐	名田 昌弘	相沢 一男	益川 勘平	村中七左エ門	新池 保	宮森 康雄	小森 富夫	福地 芳則	梅本 芳夫	多和 敏一	谷口 善之
西村 典三	古橋 九平	清水孝之介	田中善三郎	大浦 波夫	山下 治夫	西山 幸男	井田貞治郎	藤井東次郎	茨木 春生	藤本 徳雄	奥野 半蔵	新田 明	竹内 新	白山 任男	坂 一	二瓶 一郎	矢尾 太郎	中村 正雄	
伊藤美智子	三谷 春保	門司 貞男	笠原 義人	前田 勝	辻本 春男	中村 京三	小沢 忠治	土居 信久	大石 充義	山崎 秀治	可児 一郎	大野敬一郎	外海 啓一	肥後 政平	中村 俊一	柳生 嘉雄	小野寅之助	関根 道夫	

葬儀委員

葬儀委員長	飯塚 淳一郎
葬儀副委員長	白 数 美輝雄
同	緒 方 終 造

供 花

森田歯科商店、森田製作所、大阪歯科大学校友会京都府支部、府立八尾高校同窓会、歯大OB相模部大阪支部有志一同、専八回生一同、校友会柏原支部、九州歯科大学、日本私立大学協会関西支部、衆議員議員 久保田鶴松、大阪府立厚生学院、枚方ロータリークラブ、株式会社 鹿島建設、大阪城口研究所、而至化学工業株式会社、大阪歯科工業株式会社、株式会社 山浦製作所、松風陶歯製造株式会社、大阪大学歯学部、大阪大学歯学部付属病院、白水貿易株式会社、山口県京城歯科同窓会、山口県歯科医師会、親族一同、広島県校友会、六歯会大学6回卒業生、京都府歯科医師会、大阪府歯科医師会、滋賀県歯科医師会、神奈川歯科大学、神奈川歯科大学、兵庫県校友会、都ホテル、愛媛県支部校友会、宮崎県歯科医師会、日本歯科医師会、校友会宮崎県支部、大歯歯専32回生一同、校友会高知県支部、校友会三重県支部、校友会香川県支部、校友会石川県支部、校友会岡山県支部、(岡山、広島、山口、鳥根、鳥取)歯科医師会、23回卒業生一同、校友会静岡県支部、東京歯科大学同窓会、校友会富山県支部、和歌山県歯科医師会、歯科大学長会議、校友会和歌山県支部、校友会広島県備後支部、九州歯科大学同窓会、九州歯科大学、校友会島根県支部、校友会滋賀県支部、岡山県歯科医師会、武田薬品工業株式会社、校友会岐阜県支部、参議員議員 鹿島俊雄、日本大学歯学部校友会、日本大学歯学部長 鈴木勝、徳島県歯科医師会、校友会徳島県支部、京城歯科医専同窓会、九州大学医学部口腔外科学教室、株式会社 三田商店 三田慶治郎、塩野義製薬株式会社、岐阜県歯科医師会、兵庫県校友会播磨会、石切剣箭神社、東京医科歯科大学歯学部長、神道天行居、一聚会、校友会奈良県支部、株式会社独垂書店、台糖フェイザー株式会社、校友会旭区支部、大阪歯科医専29回生、三金歯科金属株式会社、済生会中津病院、学部2回卒業生、学内食堂(牧野)、日進歯材研究所、専門学校25回卒業生、にはち会、神戸医科大学歯科部、大学9回久米会、誠進社印刷所、日本レダリー株式会社、大建工業株式会社、奈良県歯科医師会、校友会愛知支部、校友会東住吉支部、株式会社富屋商店、歯科医専12回卒業、サンスター歯磨株式会社、校友会西区支部、名鉄病院、大阪府歯科医師会豊中支部、大学7回卒業生七夕会、大阪府歯科医師会豊中支部、住友病院、丸善株式会社大阪支店、帝国臓器株式会社、学部3回一同、神戸銀行新開地支店長、二六会、追手門学院、病診薬業会、専門七生会、兵庫県西宮校友会支部、藤沢薬品工業株式会社、天満橋商店会、近畿歯科衛生士会、矢田化学工業株式会社、昭和歯研工業株式会社、専門18回生、大日本塗料株式会社、愛知学院大学歯学部 加藤孝一、大阪大学歯学部生理学教室、近畿電気工業 K.K.大阪南支店、学部4回一新会、兵庫県歯科医師会、大阪歯科大学教職員会、日本歯科大学院学生会、大阪歯科大学進学科・兼任講師一同、日本歯研工業株式会社(大塚豊美)、大阪歯科大学鳥取県支部一同、谷山商店・谷山純三、三井銀行大阪支店、広島県歯科医師会、山形県校友会支部、校友会鹿児島県支部、住友銀行天満橋支店、鹿島建設株式会社支店、大阪歯科医学校定時制クラス会、日本歯科薬品株式会社、株式会社長田電機製作所、金原商店、鹿児島大学医学部付属病院・歯科口腔外科、大阪歯科大学関東校友会、愛知県歯科医師会、大阪大学歯学部長(山本巖)、大歯大校友会山口県支部、国島器械株式会社、歯科基礎学会、みかど印刷、大阪大学歯学部付属病院長(川勝賢作)、東京歯科大学校友会大阪支部、九州歯科大学校友会大阪支部、日本歯科大学校友会大阪支部、日本歯科大学、日本歯科大学校友会、大阪歯科大学教職員会、京城歯科医専同窓会(柳楽達見)、東京歯科大学同窓会、日本歯研工業(株)、株式会社南江堂京都支店、東京歯科大学、大阪帝国物産株式会社、大阪歯科大学八尾高会、佐賀県歯科医師会、大阪歯科大学保存同窓会、口腔外科学会、専21回卒業生一同天作会、株式会社・石井商店、住友信託銀行株式会社、大阪府知事、大歯31回生みそひと会、大阪府衛生部長、株式会社大和銀行片町支店、株式会社大和銀行枚方支店、日本歯科保存学会、日本歯科材料器械学会、日本補綴歯科学会、三和銀行谷町支店、口腔衛生学会、日本矯正歯科学会、さつき会、大阪府立堺高等学校、牧陵会(専27回生)、大阪歯科大学サッカー部OB会、大阪中央放送局長、日本放送協会(理事島浦精二)、大阪大・大阪府校友会、京阪電気鉄道株式会社、麻生基、藤堂三郎、横矢重和、横矢重昭、奥田義直、野村庄十、大島一郎、扇谷一貫、テラサキ、井川渉、宮川頼一、中山十家、上原常二、成田裕、加藤淑尊、大森滋雄、庄田胤富(到着順)

編集を終って

巨星墜つ、吉崎誓信先生の死は六千有余の校友の一人一人に大きな衝撃を与えた。吉崎先生ほど強烈な印象を教え子の一人一人に与えられた先生はいないだろう。

一口に40年といつても、先生の場合は終生第一線に立たれての40年であつた。大学の荆の道は、とりもなおさず先生の荆の道であつたといえよう。

先生は大阪府立八尾中学（現高校）を卒業されてから、単身米国に渡られ（一説によると養子話しを嫌われたためという）、身寄りもないまま、悪戦苦斗、ときには肉体労働者の群にも身を投じられるなどの辛酸をなめながらも、ペンシルバニア大学歯学部を大正5年に卒業された。この間、持ち前の頑張りで優等生としてすごされ、卒業のときには下宿先の小さな街では、新しい日本のヨシザキドクトルのために提灯行列を行なつてその誉をたたえたのである。また卒業のときの実習試験にアマルガムの二級窩洞の問題が提出され、吉崎先生の作品の歯頸壁の位置が歯肉縁下に達していないと試験官に指摘されたが、先生はそく座にブラックの著書の何頁に、有髄歯におけるアマルガム充填の二級の歯頸壁は歯肉縁上に止めるとの記載がある旨答えられ、試験官の方が舌を巻くというような話しもあつたようである。

また戦後はじめて米国の民間歯科界の来日の際、歯科医師会長エニスが、ペン大の同級生の、日本人のデンチストに逢いたいときがしていた人が吉崎先生であり、吉崎先生の在学時代の優待生ぶりが話題になつたそうである。ペン大卒業後、アメリカで開業しておられたが、近親者の願望もだしがたく、帰国され、本学に教授として奉職されることとなつた。傍ら、大阪本町で開業され、学内、学外に多くの俊英を育成されたのである。

学内における御仕事振りはよく知られていることであるが、開業においても一点もおろそかにされることなく、当時内弟子として勤務されていた今村外次氏（専5・石川県）のお話しによると、診察後の技工が深更に及ぶことが多く、ある日の朝、出勤して技工室に入ると、先生がブローパイプを持つまま失神されていて、皆を呼んで介抱したというようなこともあつたらしい。吉崎先生の頑張りと責任感を如実にしめす挿話といふことができよう。

吉崎先生は御名前のとおり信念の人であり、一度信頼されると、どこまでもその人を信用し、まかされた。また周囲の風評にとらわれることなく、どんな腕白、悪たれの学生に対しても寛容に接しられたので、在学時代の札つきも、吉崎先生には頭が上らなかつた。

また逆にハツタリや派出なみてくれを極度に嫌われ、そのような人をよせつけないというようなところもあり、したがって社会的交際に走り廻るという面は全くなく、晩年ロータリクラブに入会されたものの、個人的には余り積極的ではなかつたのではないかと思われるのである。

吉崎先生は常に飯塚理事長をよく助け、大学の多くの危機を乗り越え、今日の母校の隆盛をもたらされたが、そのもつとも大きい功績は、戦時の付属病院をよく空襲から守り、リジレー施風といわれたA級B級の判定によくネバリ抜いてA級の承認をとり、つづいて戦後の経済的不安時に堂々たる母校学舎の建設と大学院の設置をなしとげられたことであろう。当時のそれぞれの実情を知るものにとつて、先生の決断、実行力なくしてなし得なかつたことをよく知つておられることとおもう。

また専門の口腔治療学では、往々ハサミと糊で作つた学説にあぐらをかく学者と異り、血のにじみ出るような臨床と実践によつて得られた学問大系は、大阪歯科大学保存学教室によつて受けつがれており、福地教授との共著「臨床口腔治療学」の根元となつた「口腔治療学」は、その講義とともに卒業後の口腔治療に関する臨床家の疑問にズバリと解答を与えてくれる名著である。

吉崎先生は遂に幽明を異にせられたが、その御遺志は大学においては白数学長に、保存学教室に永遠に受け継がれていくことであろう。



校友会報 追悼号（42号）

昭和40年4月1日

発行（年4回）

大阪歯科大学

校友会編集部

大阪市東区京橋1の47

(941) 5215~9



新発売

リアル形態のレジン歯

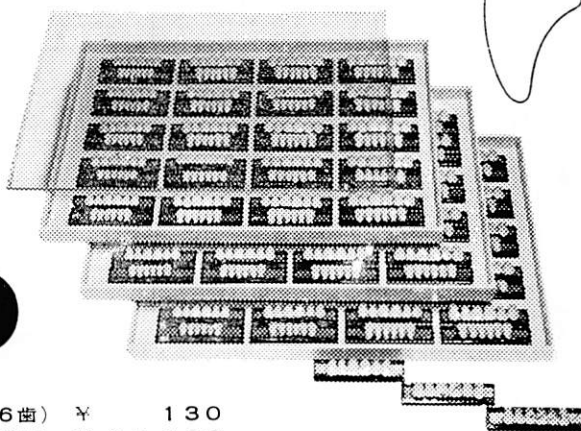
色調、形態ともに最も自然歯に近いクラン型のレジン歯で、...
従来のレジン歯より

硬く、蛍光性をもち、レジン液に対する亀裂の少ない優れたレジン歯

色調リアルシエード
55, 56, 58

松風
リアルクラン

このケースは、1ケース上下各20組入
3色別、3段重ねで、これさえあれば
どんな患者もO.Kです!!



医院病院価格 リアルクラン前歯1組(6歯) ￥ 130
プラスチック3段入 120組入 ￥ 15,600

本社 京都市東山区福稲上高松町11 松風陶歯製造株式会社

NATURAL

セミクラウン レジン歯の姉妹品

ナチュラル ベスタ陶歯 真空焼成
白 歯

陶歯対レジン歯の咬合について

- 長所
1. レジン歯と陶歯の対合で、レジン歯の磨滅は $\frac{1}{3} \sim \frac{1}{10}$ に減少する。
 2. 陶歯が破折不しい。
 3. 咀嚼力が大きい。
 4. カチカチと不快な音がなくなる。
 5. 牀の破析が少ない。
 6. 陶歯対陶歯の場合より、歯槽隆起への外傷が少ない。
 7. 咬合障害少なく咬合調整の必要が少ない。

株式
会社

日進歯材研究所

京都

GC

新発売

お忙しい方におすゝめ致します
加熱しないで簡単に
正確な義歯の出来る

ジーシー セルフ アクリル

〈特長〉

- 1). 加熱操作の手数がはぶけ、気泡も発生しません。
- 2). 変形の少ないこと。
- 3). 従来のレジン床に密着します。
- 4). 石膏との分離よく操作が容易です。

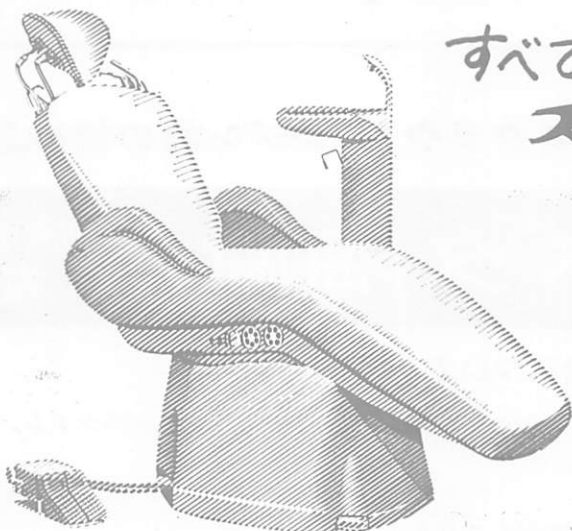
夏一約30分、冬一約60分間フラスコを締めておくだけで自ら重合硬化します

■包装 粉末 1瓶100g
液 1瓶 50g

而至化学工業株式会社

東京都板橋区迦沼町76番地

電話 (966) 1221~7番



すべてに計算された
スペースライン
チェアユニット

ユニットのない
治療室の夢を実現!
治療能率はグンと上り
それでいて疲れない



モリタ アメリカに進出!

アメリカ・ロスアンゼルスに モリタアメリカ
駐在事務所を開設 アメリカ市場に歴史的な第
1歩を印しました

日本の歯科界で 日本政府の認可を得 海外事
務所を設置したのは モリタがはじめてです

森田製作所

京都市伏見区東浜南町680

森田歯科商店

東京 大阪 京都 北九州 名古屋 和歌山 福岡